

5月15日 BIRD INITIATIVE 株式会社 CEO、イノベーション・エンジン株式会社
エグゼクティブ・パートナー 金野 諭氏

学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ

今回の講演を聞いて、ビジネスのアイデアは日常にたくさん潜んでいるということに気づかされた。これまで私は、起業には革新的な発明や特別な才能が必要だと思っていた。しかし、金野諭氏の言葉を通じて、身の回りの些細な不便や、ふと感じた違和感こそが、新しい価値を生み出す出発点になるだと実感した。日々の生活の中で「なんとなく使いづらい」「こうだったらもっと便利なのに」と感じる瞬間が、ビジネスチャンスにつながる可能性がある。重要なのは、そうした気づきを見逃さず、自分なりの視点で問い合わせていく姿勢なのだと思う。スタートアップ支援や技術の事業化に取り組み、日本におけるイノベーション創出の土壌づくりにも関わっている金野氏の活動にも共通しているのは、単なる技術開発にとどまらず、それを実際の社会課題に結びつけ価値ある形に変えていくとする姿勢である。私は現在大学2年生で将来的に起業に挑戦してみたいという思いを持っている。しかし、同時に就職活動が少しずつ近づいてくるなかで、自分は本当にこの道に進んでよいのか、まだ明確なビジョンもないままでいて大丈夫なのかと、不安に感じることも多い。周囲の友人たちがインターンや企業研究に取り組む様子を見るたびに、自分は何を軸に進路を選べばよいのか、焦りを覚える瞬間もある。そんな中ですぐに起業する必要はない日々の違和感を蓄積し、自分なりの視点を持ち続けることが大切だという姿勢は、今の自分の状況にぴったりと重なり、深く胸に響いた。講演を通じて強く感じたのは、起業家精神とは、今すぐ会社をつくることだけを指すのではなく、自分の目で社会を観察し、問い合わせ持ち、仮説を立て、行動する力そのものなのだということだ。それはどんな進路に進んだとしても、きっと自分の武器になる。また講演を聞いて「技術の目利き」や「異なる分野・人をつなぐ力」の重要性にも大きな学びがあった。今の時代、ひとつの分野の専門性だけではイノベーションは生まれにくい。異なる背景や強みを持つ人たちをつなぎ、それぞれの力を引き出し合うような翻訳者のような存在が求められているのだと思知り、自分がどのように学びどのように関わりを広げていくかを改めて考えさせられた。

(経営学部2年)

今回の講義を通して、スタートアップやベンチャーキャピタル（VC）について深く学ぶことができた。スタートアップに資金を提供しながらその成長に伴走し、支援逃げではなく成功報酬型のモデルのような、お互いにwin-winの関係を築いていく関係性は、これまで登壇していただいた方々のビジネスモデルに共通していると思った。大企業や中堅企業が自社の一部の技術や人材、事業を外部に切り出して新会社として独立させ、外部資本を活用して事業価値を高める「カーブアウト」という手法についても紹介され、これは既存

の企業資源を活かした新規事業創出の有効な手段であることがわかった。さらに、大学に眠る多数の未活用特許を活用することの重要性が強調され、世の中にはもっと活用されるべきものが多くあり、そういった事実に気づくようなアンテナを張っておく必要がこの時代において重要なと思った。特許は合法的な独占権であって、広く使われる技術で侵害立証性の高いものが良い特許とされることであったり、スタートアップ投資が合法的なインサイダー投資であることなど、自分で調べるだけでは分からず実践的な知識について身に着けることができ、とても良い機会になった。また、VC の投資会議では、リスクを中心に見極めていると知り、経営におけるリスクマネジメントの重要性について改めて実感することができた。スタートアップにおいて、顧客のニーズ、自社の提供価値、そして競合の提供価値といった 3 つの観点を考慮することは、自分が将来どんな職に就くかを考える際にも生かすことができるなと感じた。これからの大學生生活を過ごしていく中で、必要とされるような人材となれるように、毎日を大切にたくさん挑戦していこうと思う。(経営学部 1 年)

とにかく熱意がすごく、正直なところ少し圧倒された。今までの経営者は、目線を我々大学生レベルに合わせてくれて、とてもかみ砕いて説明してくださいました。しかし金野さんは、もちろん話のレベルは下げてくださったであろうが、良い意味でそこまで子供扱いをせず、最低限このレベルまでは理解してくれないと困るといったように、我々を一人のプレイヤーとしてみてくださいり最低限どこまで学ぶ必要があるのかを理解できた。

スタートアップ投資とは合法的な「インサイダー取引」、特許とは合法的な「独占権」という見方を初めて知り、目から鱗が落ちた。スタートアップ投資や特許とはここまで強力なものであったのだと認識を改めることができた。それなのにもかかわらず、特許のおよそ半数は使用されていないという現状はすこしもったいなく思う。たしかに技術は社会実装されてなんぼのものであるのに、それが「埋没」していては意味をなさない。「埋没技術」を発掘して活用している御社は、とても社会的意義をもった活動をしているように感じた。

とにかく動いて、人と会って、コミュニケーションをとることが大切だとおっしゃっており、確かにその通りだなと感じた。自分から行動を起こさなければチャンスはやってこないし、自己成長も見込めない。自分に興味のあるやつにはすぐ行動を起こしていく。とりあえず今年の夏にでもアメリカに行ってみようと思う。そして二年生になったら留学制度を利用し海外で生活を送ってみたい。(経営学部 1 年)